

## ソーシャルワーク教育における”Competency-Based”概念の必要性

○ 徳山大学 氏名 井上 浩 (会員番号 2450)

キーワード：competency、ソーシャルワーク教育、コアカリキュラム

## 1. 研究目的

高等教育において、コンピテンス (competence) やコンピテンシー (competency) という概念が重要視されてきている。ソーシャルワーク教育においても、たとえば日本社会福祉教育学校連盟 (以下、「学校連盟」) の加盟審査・認証評価基準の素案の中で、コンピテンシーをいかに取り扱うかについて記述がなされており、コンピテンシーを養成するためのコア・カリキュラムの検討がなされている。報告者も、第62回日本社会福祉学会全国大会において、「ソーシャルワーク実習教育におけるメタ・コンピテンスの追求」というテーマで報告させていただいた。

一方、報告者が所属する大学においても、社会福祉士国家試験受験のための対策講座があり、キャリア・パスのために努力している学生が多い。国家資格を目指すことは大切であるが、では国家資格がソーシャルワーク業務とどれだけ結びついているかということに関しては、疑問を抱かざるを得ない点が多い。例えば、ソーシャルワーク教育 (学校連盟が指摘しているところの、「社会福祉学を基盤においたソーシャルワーク教育」) を受けた学生が、本当にソーシャルワークの価値、知識、技術に基づいた実践を行うことができるかどうかという疑問を投げかければ、自信を持って肯定できる教育関係者はどれだけいるだろうか。大学を卒業しても、「結局、ソーシャルワークとは何かよくわかりませんでした」という学生が多いということであろう。

そこで、本報告では、コンピテンシーの概念に注目し、その概念整理を行うとともに、カリキュラムデザインにおいてコンピテンシーをどう組み込むかということを検討することを目的とする。

## 2. 研究の視点および方法

“Global Standards for Social Work Education and Training of the Social Work Profession” 「ソーシャルワークの教育および養成のためのグローバル基準」 (IASSW・IFSW「国際ソーシャルワーク学校連盟・国際ソーシャルワーカー連盟」、以下「国際基準」と表記)、“Educational Policy and Accreditation Standards” 「教育方針と認証評価基準」 (EPAS, Council on Social Work Education : CSWE、以下「EPAS」と表記)、「社団法人日本社会福祉教育学校連盟 加入審査・認証評価基準の構成 (素案)」 (社団法人日本社会福祉教育学校連盟、以下「学校連盟加入基準」と表記)、「コアカリキュラム研究報告書」 (社団法人日本社会福祉教育学校連盟、以下「コアカリキュラム報告書」と表記) の四つの資料に基づき、それぞれの資料からキーワードを拾い出しながら内容分析し、共通して

いる概念と異なった概念を抽出し、カテゴリー化した。この四つの報告書を取り上げた理由としては、国際的にソーシャルワークにおいてコンピテンシーがどのように考えられているのか、専門職団体として確立しているアメリカではどのように考えられているのか、それらがわが国のソーシャルワーク教育にどのように影響を与えているのかを考察するためである。

### 3. 倫理的配慮

本研究は文献研究が中心であり、学会研究倫理指針に触れることはない。

### 4. 研究結果

学校連盟加入基準、コアカリキュラム報告書いずれも、コンピテンシー概念を取り上げているが、「具体的にソーシャルワークの価値に基づいて何ができるようになるか」、というところにまで達しているわけではない。一方、EPASでは、その教育方針2.1“Core Competencies”、さらにその中の教育方針2.1.1-2.1.10(d)において、より具体的な表記がされている。また、国際基準においても、「4. コアカリキュラムに関する基準」として、養成校にその適用を求めている。

一方、どうしても共通項としてカテゴリー化できない要素もある。EPASでいえば、「多様性と差異」、「人間の行動と社会的環境の知識の応用」であり、学校連盟の加入基準でいえば「基礎学力の確保」、「初年次教育」、「心の発達」である。(各カテゴリーの結びつきについての詳細は、当日資料を基に説明する)

### 5. 考察

日本におけるコンピテンシーは汎用的能力が中心である。社会人基礎力や、学士力にしても、大学を卒業したときに「示せる力」だけではなく、「これから伸びていこうという力」が重視されている。ソーシャルワーク領域でも、実践に入った後に経験を積み、その経験から学び、自己を成長させていく実践者が多い。「経験から学ぶ」という姿勢が、日本のソーシャルワーク領域におけるコンピテンシーの実態であると思われる。経験から学ぶ姿勢は大切である。しかし、単に経験から学ぶことと、生涯学び続けることとは全く別の事である。大学で学ぶ中で、パフォーマンス評価を繰り返し、その姿勢を生涯続けようとするところこそが必要である。